

ふるさと県人会だより

第 2 号
平成12年8月
編 集 発 行 会
福 島 県 人 会
北 海 道 連 合 会

ふるさとのつながり

会長 上田 小八重

昭和四十八年五月、函館市湯の川温泉芳明荘で、福島県人会北海道連合会結成大会が開かれ、当時の木村県知事代理として折笠副知事がご出席。以来、毎年総会には、歴代の知事が欠かさずご出席なさって、会員との親睦を深めて下さっておられる。

昭和五十五年第八回道連総会では、松平知事が来函。函館山中腹の碧血碑（函館戦争で戦死の幕軍兵士を葬った所。義に殉じた士の血は、死してのち碧色になるといふ中国の故事に因んで名づけられた。）の前にお立ちの折、見下ろす町並みの近さといひ、高さといひ、傍らに黒松のあることさえ、飯盛山からの眺めと同じと、しばし立ち止まってもらったことを思い出す。

また、高龍寺境内の「傷心惨目の碑」前に、会津山中の自然木「紅更紗どう

だんつつじ」を自ら送呈されて植樹をなさり「み魂安かれ」と心を込めたご挨拶に、毎年碑前祭りを行ってきた私たちも、感銘したものがあつた。

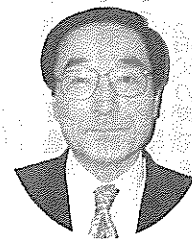
平成六年、福島―函館の空港便開通を記念して、高木須賀川市長からご寄贈の牡丹十三品種三十九株は、五稜郭城址の公園に植えられ、毎年絢爛たる大輪の花を咲かせて観光客を楽ませている。

来年二〇〇一年は、「うつくしま未来博」へ母県訪問団として参加の予定で、すでに各地域それぞれの準備を進めておられることと思われる。

各地会員との交流の深まる「県人会だより」第二号をお届け出来る事に共に喜び合いたい。



新所長あこがし



河野 郷

この四月の異動により北海道事務所に参りました。北海道は過去二度ほど訪れてはいますが、ほとんど知識が無く、白紙の状態で参りましたので、県人会の方々には今後何かとお引き回し下さいませよう宜しくお願い申し上げます。

私は昭和二十年四月一日生まれの福島市出身であります。終戦の年の生まれでありまして、名前は「郷」と書き「サトシ」と読みます。

郷の命名にはちよつとしたエピソードがありますので紹介致しますが、私の父親の実家は福島市でしたが、

家庭を持ち東京に住んでおりました。昭和二十年、東京の空襲が激しさを増したため、福島市に疎開することになったのですが、母親は臨月の身重を必死で堪えて帰り着き、私は翌日に生まれました。

父親の故郷に帰りついて生まれた子であるから故郷の郷を取り「サトシ」

と名づけられたという事でありませう。さて、着任致しまして早いもので五ヶ月が立ちました。この間、各県人会の総会あるいは連合会の総会等で、たくさんの方々と交流することが出来ました。

交流の中で、私が強く感じましたことは、皆さんそれぞれが非常に人情味の豊かな心をお持ちであるということと、母県福島県に対し、強い望郷の念と大切に思う心を持たれているということでありませう。

県人会の皆様はこの強い思いに添えるべく私に課せられた仕事は、本県県政の発展と伝統ある福島県人会連合会の発展を目指し、より一層北海道事務所の業務を活性化させる事だと考えておりますので、皆様の変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。終わりに、来年はいよいよ二〇〇一年、福島県の二十一世紀の幕開けを告げる「うつくしま未来博」が開催される年でありませう。

知事が唱える「美しい自然に囲まれた二十一世紀の福島県」を実現するために開催されるもので、「森と共生する暮らし」をテーマに、日本で初めて森の中で開かれる博覧会です。

この素晴らしい県のイベントを視察するため、来年の母県訪問は「うつくしま未来博」と致しましたので皆さんの参加をお待ちしております。

會員大會より

故郷という絆で団結の活動

美幌県人会の創立は昭和五十年だが、年間の行事は総会新年会、花見会の二回の為、会員間の交流も少なかった。平成四年、現顧問橋本前会長の就任に依り活発な活動を指導され連合会に加入すると共に、「美幌和牛まつり」への参加、「ふるさと祭り」への県人会として出店等を実施する事になりました。七月の第三日曜日は、近隣よりたく



さんの方が来られ、その日だけは美幌の人口が倍になると言われる恒例の

「美幌観光和牛まつり」。網走川河畔公園で色々なイベントが実施されている中、会員が集り、炭火で焼いた美幌和牛に舌鼓をうち生ビールを飲み交わす、これまた楽しくいつの間にか故郷なまりが出てきます。

町民参加による手作りの「ふるさと祭り」への出店。これは県人会として一大イベント。九月四日の宵祭り、五日の本祭りと三日間の出店。前日の準備から七日の後片付けまで延べ五日間すべてボランティアに依ります。利益は種々行事の一部助成と連合総会参加の為の大型バス賃にしています。写真で見ると（前末永所長北海道事務所勤務になられた年）大型テント三張り、一張りはお客の休憩する所です。各出店中一番勢いがあり、元気な声での客引きが「ふるさと祭り」です。すっかり有名になりました。期間中は楽しくもあり苦しくもありますが、後日慰労を兼ねての反省会が会員相互の親睦を一層深くします。

平成十年には連合総会を担当させていただきました。その節は各県人会、県事務所所長以下職員の皆様のお陰で盛会に終了、とても忘れる事の出来ない思い出です。
（美幌県人会）

「会の唄」歌って 夏まつり

帯広県人会は、「会の唄」の吹き込み

テープ完成を祝って、この程「夏まつり」と名づけた親睦会を、歌い手の稲富鎮恵さん（カラオケ教室主宰）経営の店で開催。会員十六名が出席、稲富さんを囲み、会の唄を歌って乾杯。楽しく盛り上がった一夜を過ごした。

一番の歌詞をご紹介しますと――

険に浮かぶ 山や川
憂き屋根も ひなびてた
遠いあの村 よみがえる

ここは 帯広 ふるさと仲間
寄ランシヨ 来ランシヨ
回ランシヨ

福島忍んで 県人会



（帯広県人会）

會員通信

七十年を振り返って

別海町県人会 真壁 国男

その時は、暗闇を急ぐ人の背に負ぶさっていた。「クニ坊寒くないか？」それは伯父の声であった。赤と青の光、かん高い汽車の響き……そうだここは停車場だ。俺達一家は汽車に乗り、どこか遠い所に行こうとしているのだ。

昭和五年三月十一日の夜半、郡山駅

構内である。当時俺は五歳、両親と弟と一家四人の行き先など判らうはずはなかったが、泣いている母の姿や周りの様子でどこか遠くへ行くのだと感じ取ってはいた。当時福島県は大変な不況の中にあつたよう、苦しい生活を続けていた親父は活路を北海道に求め母の反対を押し切つて大田伝右衛門氏を団長とする北海道移民村団体の一員に加わつたのである。そして、早春の根室本線東端の厚床駅に降り立った。ここで一泊し、翌日馬車を頼み荷物を積んでその上に母と俺達が乗せられ、親父は徒歩で五十キロ余りの泥道を入植地に向かつて出発した。ここから苦難の開拓史は綴られていくのであるが、筆舌につくし難い当時の生活を限られた誌面で表すことは難しい。共同居小屋から五キロ程離れた所に配分された自分の土地に、父は毎日通つて木を切り穴を掘り一ヶ月半程かかつて丸木柱の掘つ立て小屋を作り引越した。千古斧を入れざる未開の地に、鍬一丁、斧一丁の開拓が始まった。血の滲み出した手で植え付けられた作物も、度重なる冷害凶作で僅かな収穫しかなかった。特に昭和七年六月二十九日の大晩霜は移住民にとって生涯忘れることが出来ぬ。丹精こめて作付けし、その生育を我が子の成長を見守るようにしていた矢先の天災であった。すべての作物は収穫皆無、野生植物の生育さえ阻

新会員紹介

み、枯死させた程の強い霜だった。移民の驚きは筆舌につくし難く、その後の生活の困窮は、甚だしく、当座をしのぐ生活資金を得る為、男子は救農土木工事等に出役、政府保管の米の貸付、救援物資や見舞金（一戸三錢）で命を繋ぐも、十勝その他に移転する者、郷里に帰る者続出、残った者は農民大会を開き、極限に達した農民の窮状を道庁に陳情する等、移住民一丸となつての運動が展開された。これによつて時の道庁官佐上信一氏が根室原野視察に訪れ、根創開発五カ年計画が樹立され、穀しゆく農業から有畜農業に転換され八割補助で乳牛が導入された。その後戦争の勃発によつて停滞はしたが、終戦後酪農は次第に進展し、昭和三十七年電気の導入によつて急速に大型化し、現在別海町は人口一万八千人足らずだが、乳牛は十萬頭を超える日本一の酪農郷となった。これも先人方の不撓不屈の開拓者魂と明治生れのご根性があつたからこそ今日の酪農の基礎が築かれた事を思うと只々感謝あるのみです。

【苦小牧県人会】（十三名）

- 佐野 幹雄 伊南村
- 加藤 砂織 いわき市
- 青田 光男 原町市
- 石田 耕作 梁川町
- 菅野 秀孝 福島市
- 田中 和男 原町市
- 中島 廣志 富岡町
- 熊田 宗文 郡山市
- 畑谷 忠明 浪江町
- 佐藤 光行 福島市
- 佐久間 良一 三春町
- 齊藤 フミ子 保原町
- 峯 昭彦 福島市

【帯広県人会】（九名）

- 新井 実 須賀川市
- 大和田 光男 川内村
- 齊藤 優子 福島市
- 菅野 三男
- 野上 茂登子
- 松本 滋樹 郡山市
- 松本 俊光 郡山市
- 山田 登美子 北会津村
- 山田 忠一郎 棚倉町

【札幌県人会】（五名）

- 佐々木 定男 飯館村
- 安部 庸夫 北塩原村
- 武田 芳昌 いわき市
- 山口 昌男 昭和村
- 和知 修二 郡山市

【千歳市県人会】（五名）

- 高木 八重子 安達郡
- 富塚 要介 郡山市
- 古谷 エミ子 喜多方市
- 三津谷 能男 会津若松市
- 渡邊 俊克 伊達郡

【函館県人会】（四名）

- 渡辺 則子 郡山市
- 有間 百合子 原町市
- 藤元 吉人 郡山市
- 沼沢 行雄 猪苗代町



【美幌県人会】（四名）

- 岡部 貞夫 長沼町
- 阿部 部 浪江町
- 鈴木 清 伊達町
- 高橋 文明 会津

【別海町県人会】（二名）

- 小椋 歳雄 会津
- 横田 喜三人 郡山市

OBのお便り

道内県人会忘れがたし

第七代 所長 新国進

拜復 会員の皆様には大過なくお暮らしの事とお察し致します。その節には大変お世話になり、改めて御礼申し上げます。

早いもので福島に戻りもう十七年になります。日頃のご無沙汰ご無礼のほどお許し願います。

当方は札幌居住の経験から福島県北海道々人会に入っており、しばしば機関誌「道人会だより」に北の思い出など載せています。

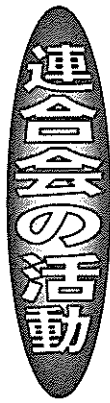
只今は勤めから退き、家族四人で小鳥と虫たちが飛び回る中、小さな雑草園で草木と対座する日々。暑い暑い福島島の夏と言ったところです。

「県人会だより」拜見致しました。

連合会の全道的広がり県人会相互や会員との連携、情報が出来た事嬉しく思っております。当時は、第一代渡邊連合会会長さん（いつも巻紙書状で激励

して下さったの時代で、仕事だけでなく家族ぐるみで種々ご教示戴きました。道内持ち回りの連合会総会、そして各地区県人会の総会に映画フィルムと市町村観光資料を持参で、二瓶清紀、法邑昭作、佐藤行利、泉谷明正、斎藤優子さんたちとおじゃまし、酒を酌み交わし遙か遠い日の故郷の話、歴代の事務職員の一一人の話題、情熱を注がれた二代目小池正夫所長、市川さん、畑中さんの思い出など話したものです。最後に故人となられた県人会関係の方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、北海道の大いなる進展と、上田会長さんのもと福島県人会北海道連合会、各地区県人会、そして会員皆様の益々のご発展とご健康・ご多幸を心よりお祈り致しております。

敬具



福島県人会連合会役員会

日時 平成十二年二月三日
 場所 京王プラザホテル
 出席者 会長他 二十八名
 第二回福島県人会連合会役員会
 日時 平成十二年五月二七日
 場所 ホテル日航千歳
 出席者 会長他 十三名

第二十八回福島県人会連合会総会

日時 平成十二年五月二七日
 場所 ホテル日航千歳
 出席者 会員約一八〇名

今年で二十八回を数える二十世紀最後の連合会総会が、知事ご夫妻を迎えホテル日航千歳を会場に開催され、県人会活動に尽力された方々へ感謝状が贈呈された。

知事表彰を原田平(紋別地区)、連合会会長表彰を穴戸洋一(千歳市)、他十三名が受賞した。

また、来年度に迫った「うつくしま未来博」について、未来博協会渡部敏




則総務部長より説明がなされた。

総会終了後の懇親交流会では地元千

歳市をかわきりに、各会から自慢の芸が披露され、最後には知事夫妻を始め会員が、恒例の北海盆踊りを踊り最高潮に達した。名残つきぬ中、来年函館市での再会を約し閉会した。

☆ "アクアマリン ふくしま" オープン!! ☆

福島県の新しい水族館「アクアマリンふくしま」が7月15日いわき市にオープン！

目玉は "さんま" 

「さんま」の養殖は難しく、日本の水族館ではここだけ。機会を見つけて是非見学してください。

☆ うつくしま未来博 ☆

入場券前売り開始

未来博の入場券を、県人会連合会で販売することになりました。今だと断然お得です。知人・友人にお勧め下さい。

普通入場券(大人)
前売り ¥2,500-
↑
当日 ¥3,000-

※詳しいことは左記までお尋ね下さい。

電話 011(241)8717

福島県北海道事務所内

連合会事務局

新職員

高田 義宏



(1010)

ふとした時に我が子が自分の一挙手一投足に鋭く反応しているのに気付く。子どもが社会を映す鏡であると言われる所似の一端を知り、自分の言動が与える影響の大きさを噛み締めつつ、人と人との交流の難しさを改めて認識する。先人が一期一会にどのような思いを込めたのか私には知る由も無いが、心地よい出会いを演出するためにも、北海道事務所での座右の銘にしたいと思う。

編集後記

千歳市県人会の皆様、総会ではお世話になりました。遊び心も入れて「第二号」やっと発行。原稿待っています！ (山口)

心地よい季節「秋」。良い貯えをしたいと思う。 (太田)

「やっと涼しくなってきたな」と思ったら、食欲の秋がやってきた。怖いよ (志津)